

胃・大腸がん部会における取組

(1) 対策型胃内視鏡検診導入に向けた読影体制の構築

【背景】

- ・ 国は死亡率減少効果が認められる検診を「対策型検診」として位置づけ、市町村が行う住民検診として推奨
- ・ 胃がん検診では、胃X線検査と胃内視鏡検査が対策型検診であり、両検査ともに二重読影が必須
- ・ 県内では対策型検診として胃内視鏡検査を実施しているのは松江市のみ
- ・ 県内自治体からは、胃X線検査の受診率が低下していることから、胃内視鏡検査導入により壮年期の受診率を向上させたいが、単独では二重読影体制が構築できない旨、県へ支援要請

【対応】

- ・ 令和2年度に出雲市及び大田市をモデル市町村に選定し、支援を開始
- ・ 民間事業者が構築するクラウドサーバーを活用した読影支援システムの導入により、市町村をまたぐ二重読影体制を構築することで、小規模市町村においても対策型胃内視鏡検診が実施可能な体制づくりを支援
- ・ 令和4年度は出雲市で事業開始（対象年齢：51・52・56・57歳）
受診者：R3 X線 1227人(うち50代65人)→R4 X線 1071人(うち50代52人)
内視鏡 541人
- ・ 令和5年8月から大田市で事業開始
- ・ 雲南市で令和6年度以降の事業開始に向けた検討を開始

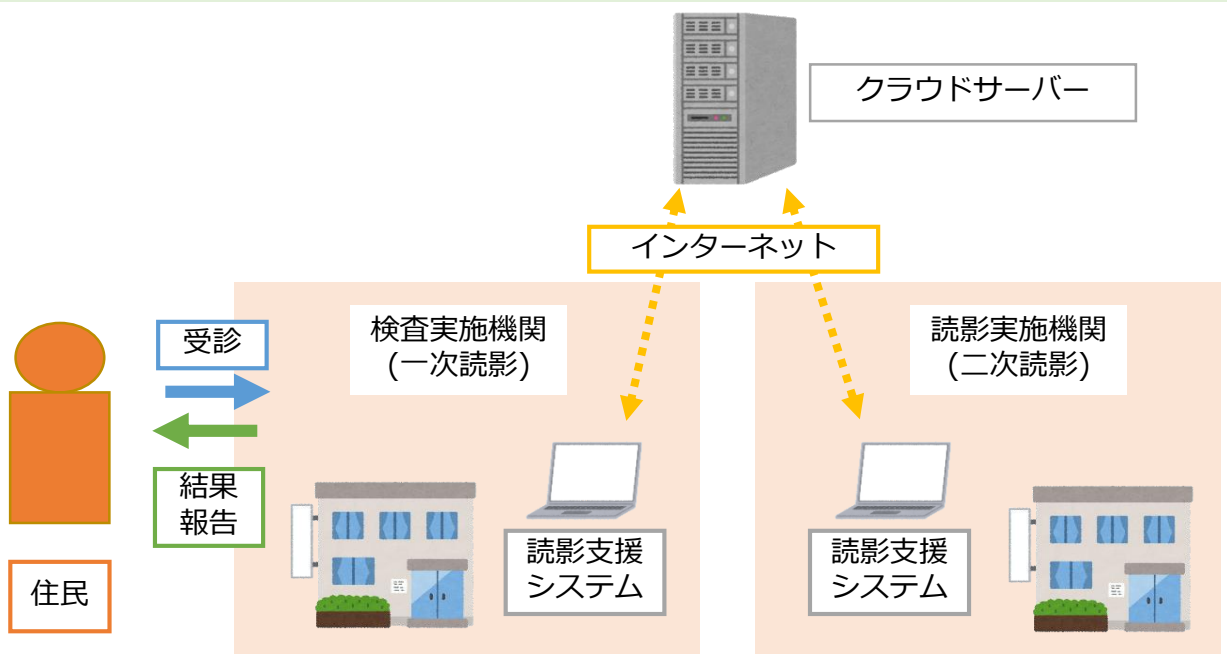


図1 対策型胃内視鏡検診実施イメージ

胃・大腸がん部会における取組

(2) 大腸がん検診未受診者対策事業の実施

【背景】

- ・ 国民健康保険（以下「国保」という）被保険者の大腸がん検診受診率が、近年全国平均を下回る状況が続いている

【対応】

- ・ 令和4年度に県事業としてモデル市町村を選定し、国保被保険者の未受診者対策に効果的な方法を検証

モデル市町村：出雲市、益田市、江津市、吉賀町

- ・ 成果連動型民間委託契約方式（PFS）を採用し、受診勧奨・再勧奨などの対策により受診率が向上した場合、その達成率に応じて委託料を支払う
性能発注により民間事業者のノウハウを活かし、成果の最大化を図る

受託事業者：株式会社キャンサーズキャン

- ・ 令和4年度事業結果

市町村名	出雲市	益田市	江津市	吉賀町
実施内容	【検査費用有料】 申込書付き受診勧奨		【検査費用無料】 キット送付型受診勧奨	
基準値 ※R3受診率	12.2%	8.2%	13.4%	31.1%
R4受診率	23.2%	21.7%	27.8%	45.2%
増減	+11.0%	+13.5%	+14.4%	+14.1%

- ・ 令和5年度モデル地区：安来市、出雲市、大田市、津和野町

本事業の骨子

大腸がん検診の受診履歴データ等を分析し、**対象者の特性に合わせた効率的・効果的な受診勧奨業務を実施**します。さらに各保険者様の検診体制に合わせた個別対策及び勧奨結果の分析・次年度施策提案から、単年だけでなく、経年での受診率向上をはかります。

